



Owner's Reference

Owner's Reference DirectStream Memory Player

Instructions for Use

日本語版



DirectStream Memory Player™

4826 Sterling Drive, Boulder, CO 80301

PH: 720.406.8946 service@psaudio.com www.psaudio.com

©2016 PS Audio Inc. All rights reserved.

15-075-01-1

Rev A



安全のために下記の注意事項を守ってお使いください。



警告

- 火事、感電を防ぐため、本体を雨や湿度のある場所に置かないでください。
- 感電などの危険を避けるため本体のカバーを空けないでください。
- 汚れた場合乾いた布で拭いてください。
- 本体の側に可燃物など置かないでください。
- 本体は通気のよい適切な場所に正しく設置してください。
- 電源コードの上に重いものを置いたり、足で踏まないようにご注意ください。
- 雷雨や長時間使用しない時などは機器からプラグをはずしてください。
- 接続するときはすべての機器が電源オフになっていることを確認してください。
- ケーブル端子は高品質であることを確認してください。
- 質問等がある場合はお近くの販売店もしくは、輸入元の完実電気株式会社までお問い合わせください。

同梱品

- 1: DMP 本体、2: 取扱説明書(英語、日本語)、3: 電源ケーブル、
4: 3P ⇒ 2P アダプター、5: リモコン、6: HDMI ケーブル

DirectStream Memory Player をご購入頂き有難うございました。

DirectStream Memory Player とは

The DirectStream Memory Player (DMP) は、最新のテクノロジーを搭載したユニバーサルディスクトランスポートで、「光学系ディスク」と言われるメディア:AVCHD, HRx, SACD, CD, CD-R/RW, DVD±R/RW, DVD±R DL の再生が可能です。更に、DMP は、フロントパネルの USB ポートやディスク経由で、FLAC, APE, WMA, MP3, M4A, AAC, DTS, AC3, WAV, DSF, MKA, PCM, OGG, の再生が可能です。(DSF は、2.8MHz まで)

DMP の心臓部には PS Audio のコアテクノロジーである Digital Lens が搭載されています。Digital Lens は 1993 年に、PS Audio のファウンダーである Paul 会長と主任エンジニアであるボブ・スタンドセラーにより開発された PS Audio のオリジナルテクノロジーです。デジタルレンズは、読み込んだデジタルデータをトランスポートのメカや電気回路から影響を受けず完全なサインカーブへと変換します。

デジタルオーディオの世界では、「タイミング」が全てです。ジッター、ノイズ、そして、干渉は特に CD といった「ハイレゾ」ではないメディアほど、影響が出やすくなります。DMP に搭載された新開発の advanced Digital Lens テクノロジーは、デジタルプロセッシング上で、バッファメモリーと FPGA を独自の技術で組み合わせ、動作させることによりタイミングとノイズ、干渉の問題を解決しています。

Advanced Digital Lens テクノロジーが開発されるまでは、PerfectWave Transport に搭載された Digital Lens は、情報処理能力に優れた RAM バッファで構成されており、読み込まれたデジタルデータはドライバー上の光学レーザーメカによる干渉を受けない設計となっています。CD の音楽信号を読み込む機器の干渉から解放された音楽信号データは、digital Lens 内のバッファで蓄積され固定式低ジッタークロックが、DAC までの出力を制御します。

8 年間の調査と 2 年間の開発期間を経て、PS Audio のエンジニアチームは、メモリーへの読み込み時間を短縮し、デジタルデータの再生のタイミングを進化させています。今回新開発された Advanced Digital Lens は FPGA 内にセミコンダクターを組み込みその特性を生かすことに成功しました。大型サイズの多機能型 FPGA を採用することで、DMP の機構設計の中心的存在である Bob Stadther は情報処理能力に優れた RAM や、独立した双方向のデータ伝達機能、そして、ニア・オフフィールド型出力回路を組み込んだリソース構造を FPGA 内におくことに成功し、小数点固定演算型ロージッタークロックがその動作をコントロールする構造を開発しました。



Introduction

Owner's Reference DirectStream Memory Player

DMP の独自の特長として、SACD 内に囚われの身となっている DSD 信号を PS Audio の Directstream DAC シリーズへ転送できることです。SACD 内にコピープロテクトされた DSD 信号は長い期間 SACD プレーヤーに搭載された D/A コンバーターや一部の Receiver やサラウンドプロセッサーで楽しむことができませんでした。これらの内蔵 D/A コンバーターは、確かに十分なクオリティーは持っていますが、マスタリングエンジニアがスタジオで体験するレベルにはありませんでした。今回、DMP を発売するにあたり、DirectStream DAC シリーズのオーナーは、これまで失われていた DSD の本質を体験することができるのです。DMP から DSDAC/DSJ の間を PS Audio の独自技術である I2S 接続経路で、お互いの持っているプロトコルをハンドシェイクさせる技術をもとに「純正」の DSD が、DMP より送り出され、DSDAC/DSJ へと送りこまれます。この DSD のクオリティーは、Gus Skinas, Cookie Marengo, Steve Hoffman といった著名なマスタリングエンジニア達の使うトップクラスの DAC と同じクオリティーを持つ他の類をみない DAC へと送り込まれているものに匹敵するものなのです。

DSD レイヤーのコピープロテクションの保護と著作権保護の観点から DMP は、PS Audio 製品で、I2S 接続された場合のみに、DSD 信号を出力します。他社製品の場合では、DSD 信号を出力することができないので、ご注意ください。

DirectStream Memory Player に搭載された出力端子

DMP には 3 タイプのデジタル出力: S/PDIF, AES/EBU、HDMI 端子による I2S、が搭載されています。I2S 接続は PS Audio が推奨する接続方法であり、PS Audio の製品や、I2S 対応の製品をお持ちであれば、試して頂きたい接続方法です。DMP には、3 タイプの I2S 出力端子が搭載されており、最大 6ch までのハイレゾ信号を出力することができます。

S/PDIF、AES/EBU は、標準的な接続方法であり、市場にあるトランスポートに搭載されています。この方式は、確かに優れた面をたくさん持っていますが、妥協している面も見られる方式です。一般的に、このデジタル出力は、独立した 3 個の内蔵クロックをディスクから取り出した音楽データーと同時に動作させ、1 つのストリーミング信号として DAC へと送り込みます。この音楽信号とクロックを混合させたために、I2S と比較して、音の強弱や粗さが目立つ原因となります。

音楽を(DA コンバーター)に送り込むよりよい方法は、I2S となります。HDMI ケーブル内で、クロックと音楽データーを分離して伝送することにより、音質への効果が絶大となります。DMP と DSDAC/DSDAC Jr.をハイクオリティーHDMI ケーブルで接続するだけで、I2S で、音楽データーを完全に伝送します。ケーブルの品質で音質が変わりますので、お試しください。

優れた音質が最近では評価され PS Audio が開発した HDMI ケーブルによる伝送方式を採用する製品は増えてきています。

DMP のフロントパネルには、USB インプットターミナルが搭載されており、USB デバイスに内蔵された楽曲のコレクションを再生することができます。USB メモリーをさせば、コンテンツへ自動的にアクセスし、DMP で再生をすることができます。DMP は、膨大な数の曲を扱うことができますが、トラック数が余りに多いとその操作が煩わしくなることがあります。ドライブメカから読み込まれた各楽曲は DMP のタッチスクリーン上に小グループで表示されます。また、いくつかの階層に分かれる大きなデーターの表示には時間がかかる場合があります。フロントパネルに搭載された入力により、友人のお気に入りのアルバムや曲に「クイックアクセス」ができる「使いやすいポート」を実現しました。ホームオーディオのショー会場で、USB メモリーに楽曲を入れてきたユーザーが、この入力を使いやすく、そして素晴らしいサウンドが楽しめるものとしてみってくれるのではないかとイメージをして開発をしました。

DMP には、新規開発をしたユーザーインターフェイスが搭載されており、少し離れた場所からでもディスプレイ上に、タイトルやトラック表示といった情報を読むことができます。既に販売終了となっている DMP 同様、演奏中の CD/SACD のアルバムアートはインターネットに接続されていれば、自動で、画面表示がされます。インターネットに接続されていれば、一度再生した CD を再生する度にカバーアートと曲のタイトルは、プレイベートライブラリーのページに保存されます。また、プライベートライブラリーの情報の修正も簡単に行うことができます。



設置について

設置・操作がスムーズに行えるよう以下のガイドラインをご参照ください。

しっかりとしたラックに設置してください。リモコンの受光部はタッチスクリーンの左側にあります。リモコンと受光部が直線上ですとより最適な操作ができます。DMP のリモコン受光部の受信範囲は比較的狭くなっておりますのでご注意ください。

DSDAC/DSJ と一緒に使用する(重ねて置く場合)

DMP と DSDAC/DSJ は、お互いの天板に重ねて設置できるよう設計されております。本体のゴム足を取り外し重ねてください。各

Perfect Wave 機の底の部分は互いに上部とピッタリ一致するように設計されております。

AC 電源

本体には AC 電源コードが付属しています。より高い性能を望まれるならば当社の PW AC 電源コードに交換することをおすすめします。又 DMP を当社の AC 電源製品、例えば PP Premier などに接続して頂くことでより高いパフォーマンスを発揮します。

開梱と接続

以下の点ご注意ください。

- ・開梱する際は柔らかい手袋を使用してください。
- ・天板に貼っている傷防止のビニールフィルムをはがしてください。
- ・出荷時に SD メモリーカードが本体裏側に挿入されております。SD カードを確認してください。
- ・4 つの接続部の一つを使用して DAC を DMP に接続してください。
- ・AC ケーブルを裏側コンセントに接続し、電源を入れてください。



DMP'S 出力オプション

DMP は、複数の出力ターミナルを搭載しています。HDMI ケーブルによる I2S ターミナル、XLR バランスによる AES/EBU、そして、RCA による S/PDIF 同軸接続となります。

ステレオ(2ch) 出力

DMP は、2chHi-fi 用ユニバーサルトランスポートです。DMP の特性が最も堪能できるのは、DMP のステレオ再生であり、3 種類のターミナルから出力される 2ch ステレオデジタル信号を D/A コンバーターへ送り込みます。

I2S 接続

PS Audio は、I2S 接続をお勧めします。I2S 接続は I2S プロトコルのやりとりで接続を維持し、データとクロックを別々に送ることにより最高の空間表現を体感することができます。

ハイエンドオーディオブランドの DAC の中で、この I2S 接続を採用するモデルは増えています。PS Audio もこの方式をハイエンドオーディオブランドへ無償公開しており、サポートも行っています。DMP は、プロトコルのプログラミングが同じで、互換性が確認できれば、DSD 以外の信号を、他社の D/A コンバーターへ送ることができます。

I2S データは、HDMI データではありません、よって、通常の HDMI ターミナルを搭載した DAC やレシーバーとの互換性はありません。HDMI ターミナルとケーブルを使って I2S の接続を実現させています。高品質の HDMI ケーブルを DMP の I2S ターミナル(FRONT/ STEREO)と DAC の I2S 対応の INPUT に接続して下さい。ケーブルが短ければ、短いほど、音質は向上します。可能であれば、50cm のケーブルをお勧めします。長いケーブルも同様に性能を発揮しますが、できるだけクオリティーの高いものを使うことをお勧めします。

SACD を再生する際に、フロントチャンネルからの出力を選択することができます。SACD (DSD)/SACD(PCM)/CDDA (PCM) の 3 タイプを選択することができます。詳しくは、セットアップの項目を参照ください。DSD 出力は、DMP と DSDAC/DSDAC Jr を、HDMI ケーブルを使用している I2S 接続の場合のみ、出力することが可能です。PS Audio の機器同士であれば、デジタルハンドシェイクにより Copy protect が確認できる接続が認識できるためです。DMP は全ての出力に同時出力しているので、出力の設定をする必要はありません。例えば、DMP の 3 種類の出力を DSDAC の 3 種類の入力に接続するといった接続も可能です



XLR

I2S が DAC に搭載されていない場合には、PS Audio は、XLR 経由で接続できる AES/EBU (Audio Engineering Society/European broadcasting Union)を推奨しています。AES/EBU は、デジタルストリーム出力で、音楽信号と複数のクロックを転送しています。

高品質の XLR ケーブルを使用し、DMP の XLR 端子(STREO)と DAC の XLR 入力を接続します。

RCA (Coax)

多くの DAC は、同軸端子を使って音楽データを受け取っています。この方式は S/PDIF format (Sony, Philips, Digital Interface Format)に準拠しており、デジタル信号の転送では一般に使われている方式です。RCA ケーブルでデジタル音楽データを伝送しており、音楽信号と複数のクロックを送っています。高品質の RCA ケーブルを使用し、データ伝送を最適化し、DMP の RCA 端子(STREO)と DAC の RCA 入力を接続します。

MULTI CHANNEL 出力

DMP は、主に 2ch Hi-fi ユニバーサルトランスポートですが、マルチチャンネルディスクの再生も可能です、マルチチャンネルデジタルオーディオの最高峰をお楽しみ頂けます。多くの SACD は、マルチチャンネル音源も収録されています。DMP は、最大 6ch までの出力が可能です。I2S 接続により、6ch 分の DSD もしくは、高品質の PCM 信号を 3 台の I2S 搭載の PS audio の DAC へと転送します。マルチチャンネルで出力した場合は、DMP は、Front ch をマスターとして I2S への出力をコントロールするので、3 台の DAC を同時にコントロールすることが可能です。PS Audio の製品ではない DAC の場合には、DSD は出力されず、PCM で出力がされ、Front ch をマスターとして動作させることは出来ません。



CONNECTING DMP: 接続

I2S

既に述べているように、3 系統の I2S HDMI ターミナルが背面に搭載されており、FRONT/STEREO, Rear, Center/Sub への出力が可能となっています。

FRONT/STEREO

STEREO、フロントと接続しています。PS audio の DAC と Multichannel で接続した場合には、FRONT/STEREO が接続されている DAC がマスターとなり、他の 2 台の DAC のボリュームレベルをコントロールします。

REAR

Rear チャンネル信号を出力します。

CENTER/SUB/SIXTH CHANNEL

Center/Sub woofer 信号を出力します、Sub woofer 用に特定の帯域の信号を出力していませんので、Sub woofer 側でのクロスオーバーの調整が必要となります。

NETWORK CONNECTION

DMP は、ネットワーク機能を持っており、フロントパネルのタッチスクリーン上に、カバーアートやソングリストを表示させることができます。PS Audio が運営する GlobalNet サーバーから情報を取得し、サーバー上や、SD カードにこれらの情報を保存することが可能です。(情報の保存等サービスを受けるには、PS Audio のサーバーへのモデル登録が必要となります。)

DMP の左側には、Ethernet 端子が搭載されています。DMP のタッチスクリーンにカバーアートやメタデータの表示、製品のアップデートを取得するためには、ホームネットワークへ Ethernet の接続が必要です。接続ケーブルには、CAT5/6 に準拠した高品質の製品の使用を推奨します。DMP を国際基準に準拠させるために、製品に同梱されているフェライトノイズサプレッサーのインサーネットケーブルへの使用をお願いします。まずは、DMP で音楽再生を楽しみたいのであれば、ホームネットワークへの接続は必要ありません。

DMP は、ディスク内に収録されているメタデータや、PSAudio のサーバーにある音楽メタデータをサーチして表示する機能を搭載しています。ホームネットワークに接続されていれば、自動的に、Ethernet ケーブル経由で、音楽メタデータをサーチします。Ethernet ターミナルに Ethernet cable を接続し、ルーター、hub 経由してホームネットワークと DMP を接続すると、タッチスクリーン上に、'internet OK' の表示が現れます。ホームネットワークへの接続がされていない場合には、'No Connection' の表示が現れます。

製品に同梱されている SD カードは、SD カードスロットに挿したままにしておきます。ラベル面を上にしてスロットへ挿入します。正しく、SD カードが正しく挿入されていれば、タッチスクリーン上に、'SD Card: OK' と表示されます。間違えている場合には 'No SD Card' と表示が現れます。



OPERATING DMP:操作

操作について

本体裏側の AC 電源スイッチを On にしてください。電源スイッチは AC Inlet の真上にあります。スイッチをオンにすると、フロントパネルのタッチスクリーンは初期化画面を表示します。この画面は本体内部のコンピュータが動作に必要なファームウェアをロードしている時に表示します。初期化画面表示後 Insert Disc と読める Opening Screen が表示されると本体の動作準備が完了したことを意味します。

ON/Off ボタン

フロントパネルの PS ロゴマークは On / Off (スタンバイ) を操作します。このボタンを押すと本機を On/Off させます。

PLAYING DISC (ディスクの再生)

タッチスクリーンの中央に表示された Open icon にタッチをし、ディスクトレイを開きます。リモコンでも同様の動作も可能です。開いたトレイにディスクを置きもう一度、Open icon をタッチします。(リモコンも同様です。)、'Reading' の表示がタッチスクリーンに現れたら、DMP は、ディスク上のデータを読み込みにいっている状態です。ディスクのデータが読み込まれたら、1 曲目が、表示され、更に、オーディオフォーマットの種類や、サンプリングレート、ビット数が同時に表示されます。左側上部には、ディスクのタイプ: CD/SACD/DSD 等が表示されます。



タッチパネルスクリーン上にある 'play' のアイコンやリモコンの 'play' の key を押し、1 曲目の再生を開始します。'play' のアイコンをもう一度押しと、Pause になります。ディスクの再生が始まると曲の進行時間と残り時間が、スクリーン下部に表示されます。

曲の送り、戻しは、タッチスクリーンパネルで行います。曲の進行を示すスクラップバーを好きなところまで移動させることも可能です。

リモコンでも同様の操作は可能です。右側の矢印が送り、左側が戻しとなります。一度おせば、X1 のスピードでの移動となり、タッチスクリーンに表示されます。もう一度押せば、X2 となり、最高で X6 まで速度を上げることができます。Play キーを押せば、通常スピードでの再生が再開します。リモコンでも同様の操作が行えます。

PLAYING FROM USB

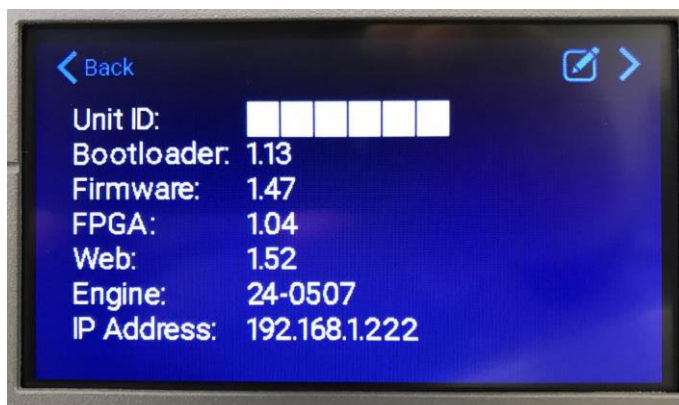
フロントパネルの USB ターミナルに USB メモリーフラッシュを挿すと、USB 内にある楽曲を再生することができます。メモリーフラッシュを挿すと自動で、入力がメモリーフラッシュに切り替わります。FLAC, APE, WMA, MP3, M4A, AAC, DTS, AC3, WAV, DSF, MKA, PCM, OGG のフォーマット再生に対応しています。この方法なら、PC 内にある音楽データを簡単に抜き出して、DMP 上で再生することが可能になります。ファイル数やホルダー数が増えると、タッチスクリーンの表示に時間がかかり、操作が遅くなってしまうのでお勧めしません。出来るだけ少ないホルダーに楽曲をまとめ、そのホルダーを開けて、楽曲を探し、再生すると快適に操作することができます。



USB メモリーを挿すと、自動で入力が USB メモリーに切り替わり、Reading 状態となります。Reading 状態で DMP は、メモリースティック上のスキャンし、終了後、最初の root ホルダーが存在する場合、スクリーン上に現れます。また、'DIR' の表示がスクリーン上のファイルフォーマットエリアに現れます。ホルダーがない場合には、最初のオーディオトラックが表示され、DSD か PCM の表示がスクリーン上のフォーマットエリアに現れます。ホルダー間をまたぐ選曲をする場合には、一度、一時停止(Pause) 状態になり、'Changing directory' の表示がスクリーンに表示されます。Changing directory が消えると選択をしたホルダーが表示されます。'play' を押すと再生が再開します。尚、楽曲名は全て表示されませんのでご注意ください。

DMP SETUP MENU

DMP のセットアップメニューにアクセスするには、ディスクが挿入されている場合は、タッチスクリーン右上部にある...を押す、もしくは、ディスクの挿入されていない場合には、ペンマークをおすと、セットアップメニュー画面が現れます。最初のスクリーンには、DMP の情報が表示されます。ここには、ファームウェアのバージョンや、IP アドレスの情報が掲載されています。



さらに、右上部にあるペンマークを押すと DMP のセットアップメニューが次に現れます。

SACD MODE

DMP は、SACD 上の、どのレイヤーを読むか設定することができます。SACD は最大 3 層:DSD STEREO/ DSD MULTI-Channel/ CD まで収録することが可能です(デフォルトは、Stereo SACD)。ディスクを入れ替えると、このレイヤー指定の設定は無効となります。再生したいレイヤーを指定することにより、短時間で、SACD を読み込むことが可能となります。

SACD Mode の設定は、以下の 3 通りの設定が可能です。

- Redbook CD
- Stereo SACD
- Multichannel SACD

PS Audio 製品以外の DAC と接続した場合、SACD STEREO/MULTI とも、PCM へダウンサンプリングされます。その場合は、88.2KHz/24 bit で出力されます。

PS Audio 製品の DAC: DSDAC/DSDAC Jr. と接続した際には、DSD で出力が可能です。



MULTI SACD

MultiSACD は、SACD Multichannel layer を再生する設定となります。Multi のフロント L/R は、Multi channel 音源を基本に mixdown 等がされているので、SACD Stereo layer に収録されている音源とは、異なりますので、Multi L/R の音源を 2ch で試聴することはお勧めしていません。尚、PS Audio 以外の DAC で接続した場合は、Multi のチャンネルも、PCM88.2kHz/24bit で出力されます。

STEREO SACD

デフォルトの設定となっており、SACD Stereo のレイヤー用の設定となります。

カバーアート(アルバムアート)

カバーアートは「表示させる」、「表示させない」を選択することが出来ます。デフォルトモードである「表示をさせる」の場合は、Ethernet 経由で、DMP をネットワークへ接続する必要があります。さらに、表示したカバーアートを保存するためには、SD カードを SD カードスロットへ挿入し、DMP にそのカードを認識させる必要があります。CD と比較して SACD のカバーアートは少ないので、SACD 再生の際、カバーアートが表示されることはまれです。

DMP を PS audio のサイトに登録し、PS Audio サイト内で、パーソナルページを持つことが出来ます(英語のみ)。この web 上のパーソナルページに集められた情報は、PS Audio のサイトのデータとして他のユーザーとシェアすることが可能です。前述のように、SACD カバーアートは少ないのですが、このような方法で、カバーアートを増やすことは可能です。一度追加されたデータは、DMP 再生時には、該当するディスクを再生すると、自動的に表示されます。

カバーアートの追加と編集

DMP がインターネットに接続され、PS audio のサイトに製品登録されていれば、CD や、SACD の楽曲情報も PS Audio のサイトへ上げることが出来ます。DVD や他のフォーマットでは、カバーアートの情報をアップすることはできません。また、PS Audio のサイト上では、playlist の登録や、メタデータの登録も可能です。(日本語サービスはなく、英語のみでの対応となります。)

接続

ディスクが挿入されていない状態で、クリーン上の...を押すと、コネクション用のメニューへとアクセスすることが出来ます。DMP が DADAC や、DSDAC Jr.に接続されていない場合には、non と表示されます。DMP が、DSDAC や DSDAC Jr.に I2S で接続されている場合には、接続されている DAC の機種や unitID が表示されます。これは、PS audio の製品同士であれば、双方の機器情報を安全にやりとりでき、更に、DSD で伝送が出来るためです。

LEVEL

次回以降のファームウェアアップグレードで実現をしたいと思います、I2S で接続している場合、マルチチャンネルセッティングメニューを追加し、Front L/R をマスターにしてボリウムのレベルを変更させるだけでなく、Rear, Center/Sub への出力レベルコントロールも独立して変更できるようなインターフェイスの追加も検討しています。

MULTI-CHANNEL 出力の使い方

Front(STEREO)、Rear, Center/Sub のターミナルを経由して SACD の Multi-channel Layer は出力されます。最大 6ch までの出力が、3 台のステレオ DAC へ伝送されます。HDMI I2S 端子のほか、

SPDIF 端子も同様に搭載されています。3 台の PS Audio Authorized DAC (DSDAC/DSJ) に接続した場合、Front (STEREO) の DAC がマスターとなり、マルチチャンネルのボリウムレベルをコントロールします。次回以降のファームウェアアップグレードとなりますが、'LEVEL' のメニューを追加し、各 DAC 3 台がそれぞれに、レベルコントロールが出来るようする仕様も追加予定です。

DMP のソフトウェアアップデート方法

DMP のソフトウェアアップグレードは、SD カードで行います。タッチスクリーンのペンマークを押すと、DMP の製品情報が表示され、ソフトウェアのバージョンが確認できます。完実電気のサイトや www.psaudio.com/downloads/ に掲載されているソフトよりもバージョンの古いソフトウェアだった場合には、前述のサイトにある最新のソフトウェアを PC にダウンロードし、SD カードへ写し、アップグレードを行います。レーベル面を上にして、SD カードを装填し、認識したことをタッチスクリーン上で確認できたら、リアパネルのメインスイッチをオフにし、再度オンにします。約 10 数秒間、フロントパネルにある Standby key が点滅していれば、ソフトウェアアップデートが実行されています。ソフトウェアアップデート中は電源等のオンオフは無論、SD カードにも触らないように、十分注意をお願いします。点滅が完了したら、SD カードはスロットより外します。（入れたままにしておくと、リアパネルの主電源を入れる度に、SD カード上のソフトウェアをスキャンします。）



トレイが開かなくなった場合の緊急対応方法

トレイが急に開かなくなった場合には、DMP のリブート（再起動）をまずは実行します。リアパネルのメインスイッチを OFF にし、AC ケーブルを DMP 本体から抜きます。10 秒間たったら、再度 AC ケーブルを挿し、メインスイッチを入れます。電源投入後のイニシャライズが完了したら、タッチスクリーンもしくは、リモコンでディスクを取り出します。リブートでもトレイが開かない場合には、本体底にあるユニバーサルドライバー用のスロットへ、先の尖った平たいもの：ポケットナイフやスクレュードライバーをスロットに挿してトレイを押し出し、強制的にトレイを開くことも可能です。



CARE OF DMP

DMP に供給される AC 電源の電圧が不安定にならないようにご注意ください。PS Audio は、PowerPlant との併用をお勧めしています。また、グロス仕上げの天板は、小さな埃であっても、傷がつきやすので、ご注意ください。

追記: Pure Audio モードの設定

DMP は、Universal Mecha のため、本来は不要な画像用の回路と同回路への電源供給 が搭載されており、動作したままになっています。このオーディオ再生に不要な回路の動作や、電源供給を止める設定が、Pure Audio モードとなります。これにより、音質の一層の向上が実現します。

設定: 以下の通りで、設定をお願いします。尚、一度設定すれば、AC を抜いても Pure Audio モードの設定は生きたままとなります。

1) デフォルトの画面の右上を押す



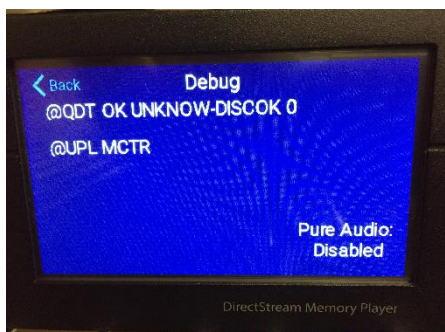
2) Unit ID 等の情報が記載されている画面が現れます。この画面の右上、「ペン」のマークのあるところを押します。



3) Setup 画面があらわれます。この画面の右下付近を押します。(特に特定の印等なし)



- 4) Debug 画面が現れます。「Pure Audio」とかかれた文言の下に「Disabled」と書かれた文言を押すと「Enabled」へと変わります。2度押すと再度 Disabled に戻りますので、ご注意ください。



*演奏中でも、設定の変更は可能です

